

KANAZAWA UNIVERSITY

DATA'18

データで見る金沢大学 2018

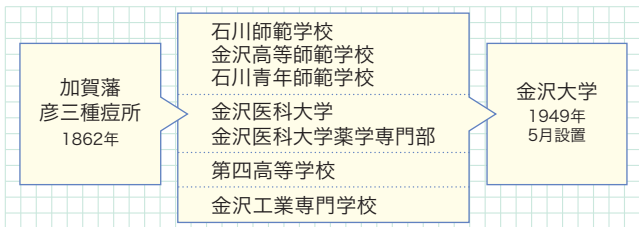
- 1 組織・沿革
- 2 入学状況
- 3 学生数および附属学校園幼児・児童・生徒数
- 4 卒業後の進路
- 5 教育
- 6 研究
- 7 科研費
- 8 産学官連携
- 9 社会貢献
- 10 生涯学習
- 11 国際交流・外国人留学生
- 12 附属図書館・資料館
- 13 附属病院
- 14 収入・支出予算額
- 15 職員数
- 16 キャンパス面積



1

組織・沿革

金沢大学は、歴史と伝統を引き継ぎ、
未来へ向けて改革する総合大学です。



3学域・17学類等

人間社会学域

人文学類／法学類
経済学類／学校教育学類
地域創造学類／国際学類

理工学域

数物科学類／物質化学類／機械工学類
フロンティア工学類／電子情報通信学類
地球社会基盤学類／生命理工学類

医薬保健学域

医学類／薬学類
創薬科学類／保健学類

国際基幹教育院総合教育部

国際基幹教育院

附属病院

がん進展制御研究所

附属図書館

学内共同教育研究施設

総合メディア基盤／環日本海域環境研究／
学際科学実験／子どものこころの発達研究／
先進予防医学研究／地域連携推進／環境保全
の各センター

保健管理センター

グローバル人材育成推進機構

新学術創成研究機構

ナノ生命科学研究所

先端科学・イノベーション推進機構

国際機構

学内共同利用施設

極低温研究室／資料館／埋蔵文化財調査センター
技術支援センター

男女共同参画キャリアデザインラボラトリー

大学院7研究科

人間社会環境研究科
自然科学研究科
医薬保健学総合研究科
先進予防医学研究科
新学術創成研究科
法務研究科(法科大学院)
教職実践研究科(教職大学院)

- 金沢大学の起源は1862年の加賀藩彦三種痘所まで遡ることができ、150年以上の歴史があります。
- さまざまな学校の歴史と伝統を引き継ぎ、1949年5月に新制大学として発足しました。
- 2004年4月、国立大学法人となり、新たな一歩を踏み出しました。
- 2008年4月、より幅広く柔軟な学びの提供を目指し、学部学科制から学域学類制に移行。2018年4月には、時代のニーズに応じて学類再編を行い、3学域17学類となりました。
- 全学的な大学改革プランとして、「YAMAZAKIプラン2014」および「YAMAZAKIプラン2016」を策定し、世界的な教育研究成果の創出に向けた改革を推進してきました。2018年4月には、10年後、20年後を見据えつつ、世界を牽引し、地方創生にも寄与する国際的な教育研究拠点の形成を目指し、従前の取り組みを発展させた「新YAMAZAKIプラン2018」を策定しました。

2 入学状況

地元北陸3県を中心に
全国各地から入学者が集まります。

■入学者の地域別内訳は、北陸3県が47%、関東・甲信越地域が21%、東海地域が16%、近畿地域が9%の順となっています。

全体数

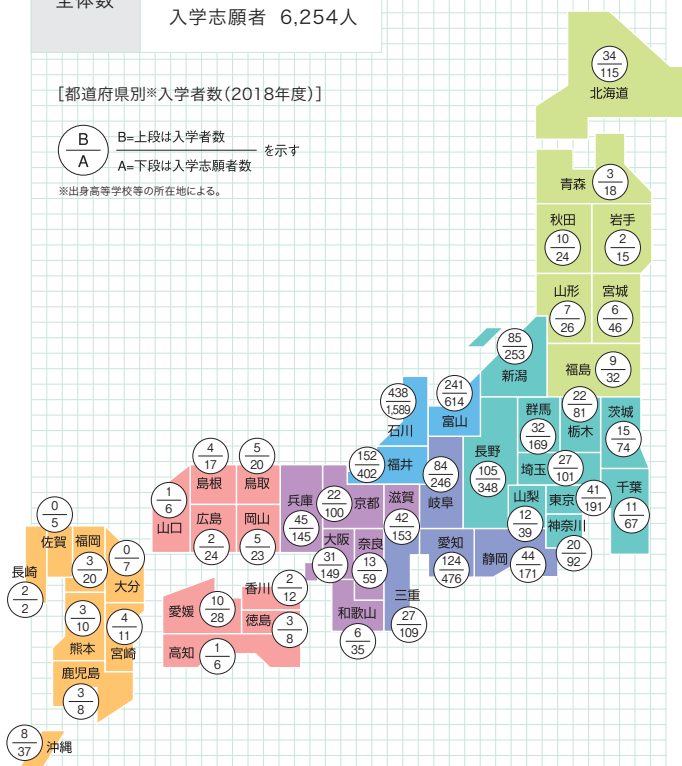
入学者 1,787人

入学志願者 6,254人

【都道府県別※入学者数(2018年度)】

$\frac{B}{A}$ B=上段は入学者数
A=下段は入学志願者数 を示す

※出身高等学校等の所在地による。



高等学校卒業程度認定試験等合格者 $\frac{5}{18}$

外国の学校等 $\frac{16}{50}$

その他(専修学校の高等課程等) $\frac{0}{3}$

3 学生数

および附属学校園幼児・児童・生徒数

附属学校園を含め

約12,000人の学生が在籍

うち女子学生は4,620人(約39%)

[学域等別学生数]

(単位:人)

学域・学類等	学生数	研究科	学生数
[人間社会学域] 人文学類, 法学類, 経済学類, 学校教育学類, 地域創造学類, 国際学類	3,176 (1,696:53%)	大学院修士 (博士前期) 課程	1,239 (294:24%)
[理工学域] 数物科学類, 物質化学類, 機械工学類, フロンティア工学類, 電子情報通信学類, 地球社会基盤学類, 生命理工学類	2,619 (418:16%)	大学院博士 (博士後期) 課程	1,038 (328:32%)
[医薬保健学域] 医学類, 薬学類, 創薬科学類, 保健学類	1,923 (958:50%)	専門職学位課程 (法務研究科, 教職実践研究科)	59 (25:42%)
国際基幹教育院 総合教育部(文系, 理系)	144 (40:28%)	計	2,336 (647:28%)
計	7,862 (3,112:40%)	その他 別科	29 (29:100%)

合計 (収容定員 9,401) 10,227(3,788:37%)

()内の数値は女子学生の人数および割合%です。

■附属学校園幼児・児童・生徒数は、幼稚園107人、小学校655人、中学校477人、高等学校372人、特別支援学校60人の計1,671人です。

[附属学校園在籍者数]

(単位:人)

学校名	在籍者数	学校名	在籍者数
幼稚園	107(54:50%)	高等学校	372(188:51%)
小学校	655(333:51%)	特別支援学校	60(18:30%)
中学校	477(239:50%)		

合計 1,671(832:50%)

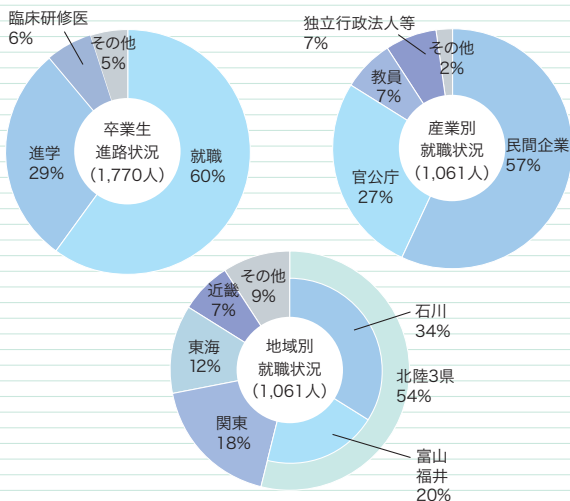
()内の数値は女子児童・生徒の人数および割合%です。

4 卒業後の進路

学士課程卒業生の29%が進学
理工学域においては65%が進学

- 学士課程卒業生の累計は、91,258人に達し、社会の各方面で活躍。
- 2017年度学域・学部卒業生(1,770人)の29%が大学院などへ進学。
- 就職者の27%が官公庁に就職。
- 就職エリアは北陸3県が54%でトップ(石川県34%)。

[2017年度卒業生進路状況・地域別就職状況・産業別就職状況] 2018年5月1日現在



官公庁へ多くの人材を輩出

- 金沢大学では、就職支援室が中心となって、就職指導・支援の充実を図るとともに、大学生協とタイアップして公務員試験対策講座を開講するなど、合格に向けた支援も行っています。
- 地方公務員試験合格者数は全国の大学の中で常に上位に位置しています。また、2017年度の国家公務員一般職試験では、行政111人、技術系21人の計132人が合格、国家公務員総合職試験では6人が合格しました。

5 教育

本当に学びたいものが学べる学士教育

- 「学類」という枠組みで入学した学生は、そこで学びの基礎を固めつつ、自分が本当にやりたいテーマを探することができます。
- 「経過選択制」により、基礎基本を学びながらじっくりと自分のテーマを選ぶことができます。
- それぞれの学域・学類における共通科目を「学域GS科目」として整備し、学びの核をつくります。また、「主専攻」に加え「副専攻」を用意し、これにより学際的、横断的な学びが可能です。

本学の特色ある取り組み

- 本学が育成する人材の具体的な姿を表した「金沢大学<グローバル>スタンダード(KUGS)」を制定。世界で活躍する「金沢大学ブランド」人材を育成します。
- KUGSを基軸とした学士教育の基盤となるGS(Global Standard)科目とGS言語科目を中心とする体系的なカリキュラムを実施。加えて、導入科目、基礎科目、初習言語科目などの授業を開講し、大学の教育全体の基盤となる知識・技能および教養、さらに幅広い専門外の知識や現代的な教養を備える人材を育成します。
- 国際基幹教育院では、学士課程から大学院課程における教育の基盤をなす教養的教育(基幹教育)を強く推進することで、本学の教育全体の高度化と国際化を牽引します。

さまざまな学生支援を展開

- 学修・履修方法やコース選択などについて、一人一人に親身な指導を行うアドバイス教員を配置しています。
- 履修と大学生活に必要な情報が網羅されている「アカンサスポータル」、e-ラーニングと呼ばれる講義など、ICTを活用した自学自習を行う環境を整備しています。また、ラーニング・アドバイザー(LA)などによる学修支援も行っています。

学位授与数は全国19位

[2016年度大学別学位(課程博士)授与者ランキング]

順位	大学名	授与件数	順位	大学名	授与件数	順位	大学名	授与件数
1	東京大	1,276	8	筑波大	451	15	東京医科歯科大	247
2	京都大	798	9	早稲田大	414	16	慶應義塾大	225
3	大阪大	690	10	東京工業大	317	17	岡山大	190
4	東北大	583	11	広島大	291	18	日本大	162
5	九州大	528	12	神戸大	264	19	金沢大	153
6	北海道大	507	13	千葉大	258	20	新潟大	146
7	名古屋大	497	14	中央大	251			

6 研究

学術論文被引用数, 国内**23**位
薬学・毒性学分野では国内**6**位
臨床医学分野では国内**14**位

■大学の研究面の成果や実績を示す指標の一つとして「学術論文」の被引用数があります。トムソン・ロイター社「Essential Science Indicators™」データベースによれば、2008年1月～2018年2月の10年間の論文被引用数は、金沢大学は国内で23位、世界788位にランクされています。

■分野別では、薬学・毒性学分野で国内6位など、高度な研究力を有しています。

[日本の論文の引用動向 2008.1-2018.2 日本の研究機関ランキング]

【①全分野(ALL FIELDS) 5,578機関】(論文被引用数で上位1%に含まれる機関数)

国内順位	世界順位	機関名	論文数	被引用数	平均被引用数
1	49	東京大学	80,381	1,366,973	17.01
2	98	京都大学	58,780	888,719	15.12
3	151	大阪大学	45,860	698,270	15.23
4	164	(国研)科学技術振興機構	27,848	668,919	24.02
5	179	東北大学	45,355	608,043	13.41
6	213	(国研)理化学研究所	25,131	540,917	21.52
7	245	名古屋大学	31,826	462,659	14.54
8	294	九州大学	32,663	394,515	12.08
9	308	北海道大学	30,979	375,133	12.11
10	327	(国研)産業技術総合研究所	23,628	360,763	15.27
11	356	東京工業大学	24,456	333,407	13.63
12	441	筑波大学	20,506	267,533	13.05
13	489	(国研)物質・材料研究機構	13,653	248,052	18.17
14	502	慶応義塾大学	17,655	238,864	13.53
15	541	広島大学	17,041	216,626	12.71
16	568	(共)自然科学研究機構	11,557	199,273	17.24
17	578	岡山大学	14,572	195,741	13.43
18	610	神戸大学	15,017	185,953	12.38
19	681	千葉大学	13,468	164,804	12.24
20	690	東京医科歯科大学	9,645	161,322	16.73
21	731	早稲田大学	11,672	148,757	12.74
22	740	東京首都大学	6,537	146,102	22.35
23	788	金沢大学	10,284	135,992	13.22

○トムソン・ロイター社「Essential Science Indicators™」データベースを基に作成。
(世界順位等の情報は上記データベースから転記。それ以外は本学先端科学・イノベーション推進機構調べ)

7 科研費

日本の学術振興のため優れた研究を支援する「科研費」の新規採択件数は全国で**13位**(2017年度)

■ 科研費の2017年度の国の予算額は**2,284億円**で、前年度に比べて**11億円**増加しています。

- ・採択件数**888件**
- ・採択金額**23億3,597万円**

※2017年度新規+継続合計
文部科学省「平成29年度科学研究費助成事業の配分について」
(2017.10公表)より

採択金額
7年間で

36%増



■ 2017年度の新規採択件数は全国で**13位**です。

[2017年度科研費 採択件数ランキング(新規採択分)]

順位	大学・機関名	件数	新規採択率	順位	大学・機関名	件数	新規採択率	順位	大学・機関名	件数	新規採択率
1	東京大学	1,301	35.4%	8	筑波大学	409	28.5%	15	千葉大学	302	32.4%
2	京都大学	982	34.7%	9	神戸大学	373	28.0%	15	岡山大学	302	26.9%
3	大阪大学	845	30.4%	10	広島大学	407	28.9%	17	新潟大学	278	29.0%
4	東北大学	847	29.8%	11	慶應義塾大学	345	34.8%	18	(国研)理化学研究所	275	26.8%
5	九州大学	674	28.2%	12	東京工業大学	330	30.6%	19	熊本大学	243	28.9%
6	名古屋大学	586	31.7%	13	金沢大学	313	29.3%	20	東京医科歯科大学	236	27.2%
7	北海道大学	563	28.5%	14	早稲田大学	307	28.6%				

注)研究代表者の所属する大学等により整理している。

文部科学省「平成29年度科学研究費助成事業の配分について」(2017.10公表)より

■ 金沢大学では、申請書類作成のための説明会や、研究費支援など、さまざまな方策により科研費の一層の獲得増を目指しています。

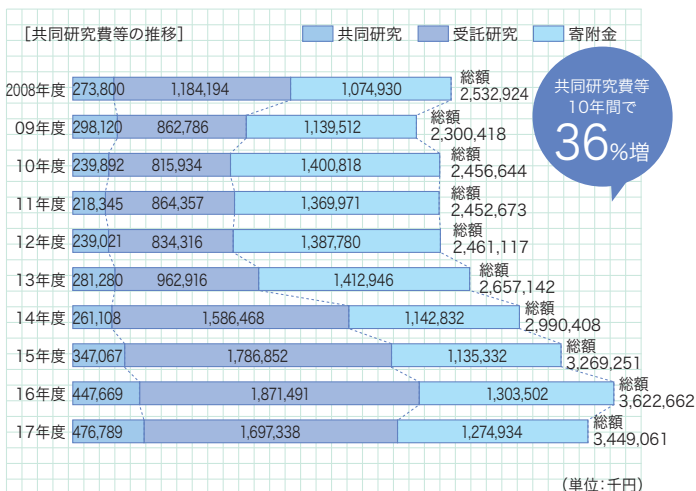
8 産学官連携

産業界との連携を図るため、金沢大学先端科学・イノベーション推進機構を窓口として、共同研究、受託研究を推進しています。

- 2017年度の共同研究・受託研究の合計件数は566件で、10年前に比べて80%増えています。
- 2016年度の民間企業との共同研究は、全国の国公私立大学の中では、件数別で21位です。(文部科学省「2016年度大学等における産学連携等実施状況調査」より)

共同研究費等は10年間で**36%増**。

- 2017年度の共同研究、受託研究、寄附金を合わせた金額は、34億4,906万円となっており、産学官連携による資金の獲得を積極的に図っています。



2016年度における

特許権実施等件数は261件で 全国**13**位、
特許権実施等収入は2,184万円で 全国**19**位

(文部科学省「2016年度大学等における産学連携等実施状況調査」に基づく順位)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
特許権実施等件数(件)	233	224	245	261	248
特許権実施等収入(千円)	27,225	35,987	22,957	21,841	25,859

9 社会貢献

地域・社会と共にある大学を目指し
積極的な社会貢献活動を展開

■ **13**の自治体と連携協定を締結。
大学の人材や知的財産を地域の活性化や
課題解決に生かします。

地域との連携協定状況

- | | | | |
|---------|----------|--------|----------|
| ①石川県 | ②金沢市 | ③七尾市 | ④小松市 |
| ⑤輪島市※1 | ⑥珠洲市※1※2 | ⑦加賀市 | ⑧白山市 |
| ⑨能美市 | ⑩志賀町 | ⑪穴水町※1 | ⑫能登町※1※2 |
| ⑬富山県南砺市 | | | |

※1：石川県立大学、輪島市、珠洲市、穴水町、能登町の1大学4自治体と地域づくり連携協定を締結しています。

※2：珠洲市および能登町とは※1の連携協定に加え、それぞれ個別の協定も締結しています。

■ これまでに**165**人の里山里海マイスターを輩出。
地域人材の養成に取り組んでいます。

「能登里山里海マイスター」育成プログラム

石川県、奥能登2市2町および地元企業と連携して、能登の明日を担う若い世代を対象に「能登里山里海マイスター」を育成・輩出。里山里海の自然資源を生かした能登半島の活性化を目指しています。

2016年度からは、講義と体験実習を組み合わせた遠隔教育科を合わせて開講。

このプログラムによる取り組みが評価され、イノベーションネットアワード2018において、文部科学大臣賞を受賞しました。



プロジェクトの拠点「能登学舎」
(珠洲市・旧小泊小学校)

能登里山里海研究部門(珠洲市)

珠洲市からの寄附により、里山里海研究を基盤として地域の人材養成など地域活性化につながる事業を実施します。

■ 築**300**年の古民家を移築した「角間の里」は
大学と地域の人々との交流拠点です。



金沢大学創立五十周年記念館「角間の里」

角間キャンパスの「里山ゾーン」は、全国の大学の中でも有数の環境資源に恵まれています。この里山ゾーンを学生教育に活用しつつ里山保全を行うなど、21世紀型の里山活用を推進しています。また、ゾーン内には白山麓白峰地区(旧・白峰村)にあった築300年の豪農民家を移築した金沢大学創立五十周年記念館「角間の里」があり、金沢大学の社会貢献活動の拠点の一つとして、また、地域住民の多様な交流の場として活用されています。

10 生涯学習

開かれた大学づくりにより
2,210人の生涯学習をお手伝い

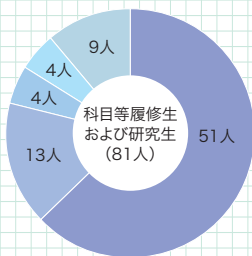
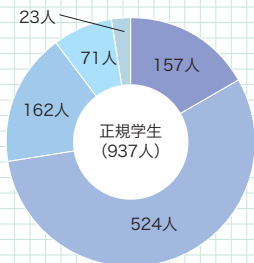
1,018人の社会人学生を受け入れています。

- 社会人学生が学びやすい環境を整えるため、土日・夜間に講義・研究指導を受けられる特例措置や、入学から卒業・修了までの履修期間をあらかじめ長く設定できる制度を設けています。

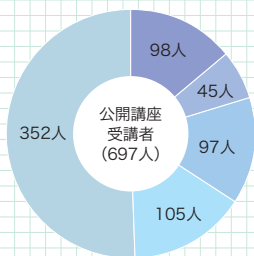
幅広い年齢の1,192人が公開講座・ミニ講演を受講。

- 金沢大学では、開かれた大学づくりを推進し、行政・関係団体・グループなどと協力し合いながら、地域の人たちの生涯にわたる学習活動のお手伝いをしています。
- 大学が持つ専門知識を生かした取り組みとして、1976年から公開講座を毎年開講。幅広い分野の講座を企画し、一人一人の自発的な学習活動を支援しています。また、地域との交流を深めるために大学の最先端研究を分かりやすく解説するミニ講演の実施など、生涯学習しやすい社会づくりに貢献しています。

[社会人学生の年代別内訳(2018年5月現在)]



[公開講座受講者の年代別内訳(2017年度)]



■ 30代未満
■ 30代
■ 40代
■ 50代
■ 60代以上

(2017年度)

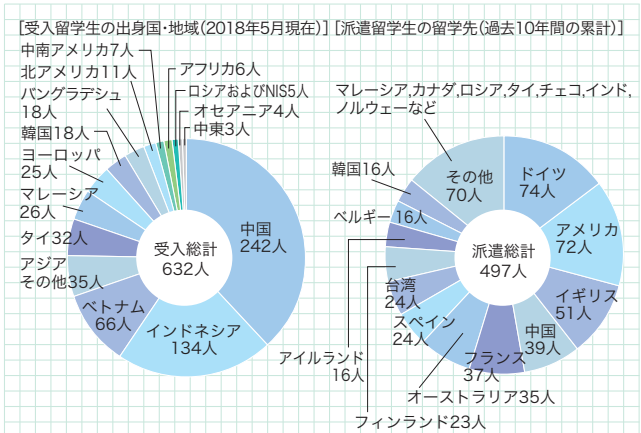
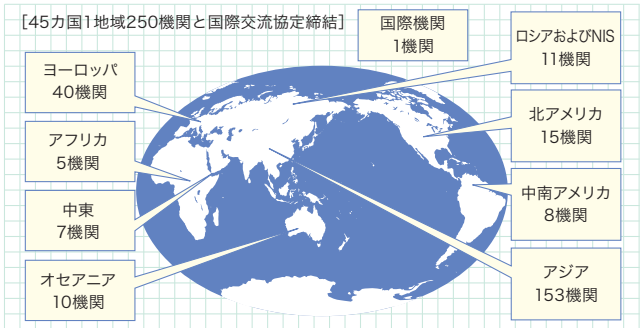
	実施数	受講者数
公開講座	31講座	697人
ミニ講演	11回	495人

11

国際交流・外国人留学生

環日本海の基幹大学，
東アジアの**アカデミアの拠点**として，
世界のトップ大学との交流を積極的に推進

- 金沢大学は、環日本海域の基幹大学、東アジアのアカデミアの拠点として、アメリカ、ヨーロッパ、アジア地域のトップ大学との交流を積極的に推進しており、世界の45カ国、250機関と協定を締結しています。
- 金沢大学で学ぶ外国人留学生は、世界41カ国・地域からの計632人です。うち90%にあたる571人がアジア地域からの留学生です。中でも、中国からの留学生が一番多く、242人を数えます。
- 近年では、毎年約50人の学生が協定校に留学(期間3カ月～1年)しています。留学先で多い国は、ドイツ、アメリカ、イギリス、中国です。このほか、海外異文化体験・語学研修、インターンシップなどの短期研修プログラムに派遣するなど海外留学を促進しています。

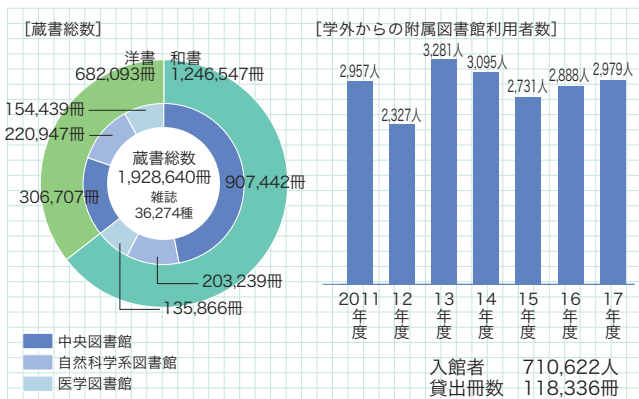


12 附属図書館・資料館

附属図書館の蔵書数は約**193万冊**

電子ジャーナルは約**7,900**タイトルと充実

<図書館Webサイト> <https://library.kanazawa-u.ac.jp/>



■附属図書館は、中央図書館(角間キャンパス北地区)、自然科学系図書館(角間キャンパス南地区)および医学図書館(宝町・鶴間キャンパス)の3館で構成されています。

■学生が能動的に学び合う空間「ラーニング・commons」と、日本人学生と留学生が日常的に交流できる「国際交流スタジオ/コーナー」を全館に配置しています。

■県内公共図書館と協力したネットワークを形成し、来館者(北陸3県在住者)に貸出をするほか、公共図書館を窓口とした貸出も行っています。

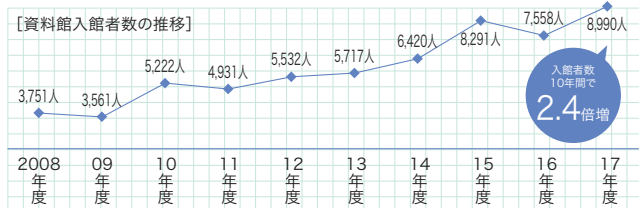
■金沢大学学術情報リポジトリKURAにより、本学教職員の教育・研究活動の結果として生み出された学術成果(論文や研究データなどのコンテンツ)を電子的な形態で保存し、インターネット上で公開しています。

<https://kanazawa-u.repo.nii.ac.jp>

資料館では、約**88,000**点の資料を収蔵

■資料館は、1989年に金沢大学の角間移転を機に設置され、2016年に文部科学大臣から「博物館相当施設」に指定されました。

■収蔵資料数は、モノ資料約77,000点、文書資料約11,000点の計約88,000点です。金沢市指定文化財である加賀藩藩校の「明倫堂」および「経武館」の扁額のほか、前身校を含む金沢大学に関する資料を所蔵・展示しています。



13 附属病院

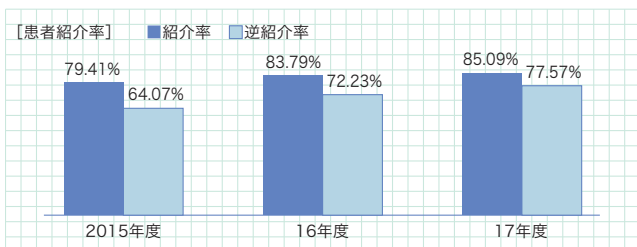
36の専門診療科, ベッド数838床,
1,800人を超えるスタッフ

診療科数 36科		ベッド数 838床	
診療状況	外来	延べ患者数	377,486人
		1日平均患者数	1547.1人
		平均通院日数	22.8日
	入院	延べ患者数	262,422人
		1日平均患者数	719.0人
		平均在院日数	17.0日

※外来診療日数244日 ※診療状況は2017年度

地域の医療拠点として質の高い医療を提供

■近年、病院の機能や役割は細分化され、大学病院、地域の病院・診療所が役割を分担し、それぞれの役割を果たすことが重要になっています。附属病院は、高度で良質な医療を提供する特定機能病院として厚生労働省から承認を受けており、その役割を果たすため、患者のかかりつけ医である地域の病院・診療所、そして保健行政機関、医師会等との地域医療支援ネットワークづくりを進めています。



※紹介率は、附属病院を受診した患者さんのうち、他の医療機関から紹介されて来院した患者さんの割合。逆紹介率は、附属病院から他の医療機関に紹介した患者さんの割合を示す数字。これらの率は地域の医療機関との連携の指標です。

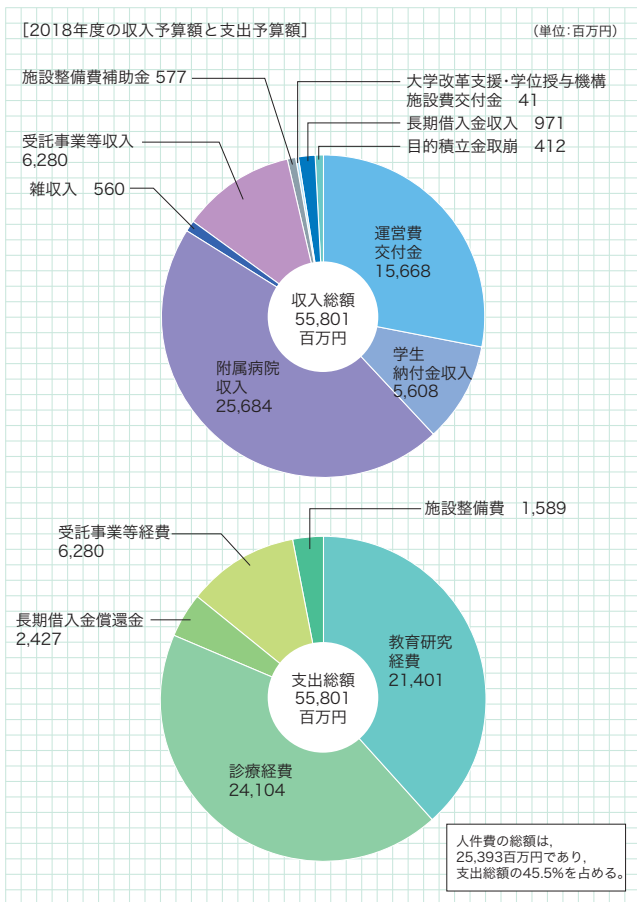
臨床研究の推進と医療人材の育成

■平成30年4月1日から臨床研究法が施行され、臨床研究に関して制度や研究審査の流れが大きく変更となりました。金沢大学では、新たに設置した「金沢大学臨床研究審査委員会」が平成30年3月30日付けで同法に規定する認定臨床研究審査委員会として厚生労働大臣から認定を受けました。今後、質の高い審査を行うよう努めていきます。

■石川県と連携して設置した「金大病院CPDセンター」には、TV会議システムやトレーニングシミュレーターを備えています。県内における医療人の育成、専門職能力開発、生涯学習の充実および医療レベルの向上を目的としており、医療関係者同士の知的交流の場となることが期待されています。

14 収入・支出予算額

2018年度予算額は約**558億円**



- 国からの運営費交付金約157億円は、収入予算額の約28%を占めています。
- 金沢大学の予算額を地方自治体の2018年度一般会計予算額と比較してみると、石川県の約1/9、金沢市の約1/3の金額となっています。

[2018年度一般会計当初予算額]

(単位:百万円)

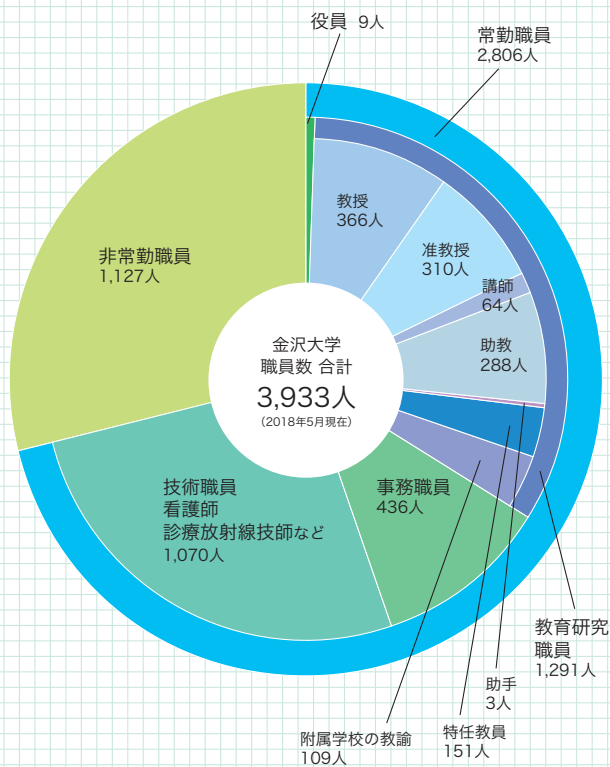
石川県	金沢市
515,351	168,710

自治体のWebサイト公表データより

15 職員数

2018年5月現在、
金沢大学で働くスタッフ数は**3,933人**

[金沢大学で働く職員数とその内訳]

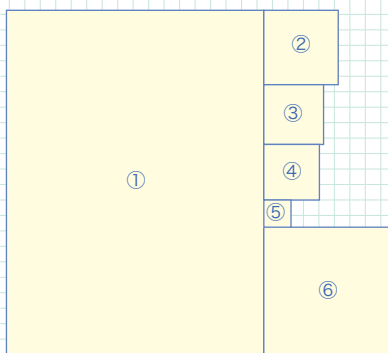


■金沢大学で働くスタッフ数は常勤2,806人、非常勤1,127人、合計3,933人。うち教育研究職員が1,291人で、学生9人につき、教育研究職員が1人つく割合です。

16 キャンパス面積

豊かな緑に囲まれた
ロケーションにある角間キャンパス
このメインキャンパスをはじめとする
金沢大学の総面積は、約**265万**m²
東京ドームの約**57**個分

[各キャンパスの面積対比]



①角間キャンパス 2,008,565m²
本部・人間社会学域・理工学域・
医薬保健学域(薬・創業)・がん研 ほか

②宝町・鶴間キャンパス 151,053m²
附属病院・医薬保健学域(医・保) ほか

③小立野地区 83,342m²

④平和町地区 79,876m²
附属幼・小・中・高

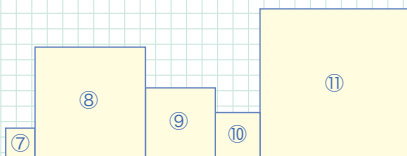
⑤東兼六地区 10,517m²
附属特別支援

⑥その他 320,236m²
臨海実験施設
辰口共同研修センター
学生寮・職員宿舎 ほか

①+②+③+④+⑤+⑥

金沢大学 総面積 2,653,589m²

[比較例]



⑦石川県立野球場 20,179m²

⑧金沢城公園(外堀等含む)
約285,000m²

⑨兼六園 114,429m²

⑩東京ドーム 46,755m²

⑪東京ディズニーランド 510,000m²



金沢大学

KANAZAWA
UNIVERSITY

編集 / 金沢大学総務部広報室

所在地 / 〒920-1192 石川県金沢市角間町

tel.076-264-5024 fax.076-234-4015

URL / www.kanazawa-u.ac.jp/

E-mail / koho@adm.kanazawa-u.ac.jp

※このリーフレットの掲載内容および最新ニュースなどについては、
「金沢大学Webサイト」でもご覧いただけます。

※データは特別な記載がある場合を除き、2018年5月1日現在のものです。

